

令和6年度第2回多治見市男女共同参画推進審議会 議事要旨

I. 開催日時 令和6年9月12日(木) 10時～11時35分

II. 場所 多治見市役所本庁舎 2階大会議室

III. 出席者(敬称略)

<出席委員> 中村奈津子、岩下英治、澤田拓哉、伊藤牧子、落合絵美、岸道子、
柴田陽一郎、森真由美、西戸千穂、三宅純人、大谷康博(11名)

<欠席委員> 河人宗寿、守屋ひと美、市原浩代(3名)

<事務局> 環境文化部長: 伊藤徳朗、くらし人権課長: 勝見祐子
くらし人権課: 今井光春、遠藤智子

IV. 内容

1 企業アンケートの実施について

2 その他

(1) 条例制定20周年記念事業について(令和7年度)

(2) 次回審議会の開催について(令和7年5・6月予定)

【資料】

次第

資料1: 企業アンケートの実施について

資料2: 企業アンケート調査票(案)

冊子: 第3次たじみ男女共同参画プラン後期計画 令和5(2023)年度～令和9(2027)年度

V. 議事要旨

○はじめに

会議及び議事録の公開、会議の録音について(事務局説明)

新任委員紹介

【議題】

1. 企業アンケートの実施について

事務局 (説明…資料1、資料2)

会長 前回の審議会では、アンケートの目的やねらい、内容についての意見が中心だった。今回は、アンケートの内容や、発送方法、集計や分析の視点などの提案もいただけるとありがたい。質問、意見はあるか。

委員 調査票は紙で配布し、回答は紙かWEBということか。

事務局 財政課が、現在登録のある事業者へ郵送で更新案内をするので、そこへ紙の調査票を同封させてもらう。回答は、財政課の書類と一緒に紙で提出するか、WEBで入力するか、どちらもできるようにしている。

委員 1 ページ下部分の講演会については、講師の情報や、フィンランドがジェンダー平等ランキングで上位であることなど説明を加えた方が、参加しようと思えるのではないか。スペースの問題もあるが検討してほしい。

3 ページの「出産した女性従業員又は配偶者が出産した男性従業員のうち育児を取得した人数」の設問について、現在は、里親や特別養子縁組された方も育児休業を取得できるので、配慮が必要ではないか。

- 事務局** 出産した方だけが対象ではないと分かるように表現を改めたい。
- 委員** アンケートの結果を受けて、その後どのようなアクションを取るかが重要である。
- 事務局** 結果をふまえ、市として取り組めることには、積極的に取り込んでいきたいし、企業へアプローチする場合には、商工会議所など他機関と協力していきたい。また、広報や啓発の内容にも生かしたいと考える。
- 委員** アンケートの内容は、各事業所で取り組んでいることの確認になっている。啓発目的ということであれば、取り組めていないことを調査するのも大事である。例えば、知識が乏しいためできない、少人数だからできないなど、困っていることについても調査する考えはないか。
- 事務局** 当初、問9、問10で「特に何も行っていない」と回答した場合に、その理由を問う設問を加えていたが、回答する側に負担感があるのではないかという事で、課内で検討する段階で削除した。
- 委員** では、アンケートの最後に、困っている事や取り組みたいけれどできない事、相談したい事を記入する欄を設けてはどうか。
- 事務局** 自由記述欄とすれば、記入するかどうかは任意であり負担も少ない。そのように付け加えたい。
- 委員** 経営者の性別が、アンケート結果に影響するのではないか。その点について、どのように考えているか。
- 事務局** 知見がなく、影響するかは分からない。このアンケートは、あくまで市内の事業所の傾向や状況を把握し、結果を受けて取り組みを進めるためのものである。皆さんの知見や意見をお聞きしたい。
- 委員** 誰が回答するかは、とても重要なポイントである。今回の質問内容は、基本的に事実確認であり、事業所の代表や労務管理の方が回答すれば、回答者の性別により差が出るものではないという認識でよいか。
- 事務局** 回答者の性別による影響は全く意識せずアンケートを作成している。内容的に事業所全体を把握していないと回答しづらいと考え、事業所の代表者か、育児など制度に明るいと考えられる人事・労務担当者に答えていただくよう指定した。
- 委員** 例えば、経営者が女性の場合にテレワークの導入率が高い、というような結果が出るのであれば、性別を聞くことも面白いかもしれない。
- 委員** 回答者は誰でもいいが、経営者の性別や年代で考え方や取り組み状況に違いがあると思うので、それを聞くと面白い結果が出るのではないか。
- 事務局** 事業所名から経営者の属性を調べることができるかもしれない。やり方を考えたい。
- 会長** 個人情報を探る場合には、その目的を明らかにできなければいけない。事務局で検討してほしい。

- 事務局 検討する。
- 委員 アンケートは、事業所の状況を分析するのと併せて、次のアクションを起こすためのデータになる。また、回答者が男女共同参画の情報に触れる機会を提供することは、アクションを起こしてもらいやすい環境を作ることにつながる。アンケート結果を通じて、関心の高い企業同士が各々の状況を知ることによって、より推進する機運が醸成される機会になるとよい。
- 会長 アンケートに答えてみようと思える動機付けも工夫できるとよい。ほかに、意見、質問はないか。
- 委員 アンケートの集計はどのように行うのか。
- 事務局 単純集計と簡単なクロス集計を行う見込み。
- 委員 事業者の業種、業態、従業員数によって、現状は大きく変わる。例えば、従業員が5人しかいない事業所では、育児休業や介護休業のような休みの取得や制度の利用が難しいし、かたや、従業員が何百人もいる事業所では、カバーできる体制が整っていると思われる。単純集計だけでは、実態が見えないことが考えられるため、結果の出し方を考慮できると良い。アンケートの結果は、回答者に直接送付することはできるのか。
- 事務局 前は、集計結果そのものを送るのではなく、企業向け情報紙に特徴的な部分を抜粋して載せ、その情報紙を送付した。全集計結果はホームページに掲載し、見たい場合はホームページを見るよう周知した。今回も、そのようなやり方で情報提供することを予定している。集計は、単純集計とクロス集計を行い、ご意見いただいたように業種や従業員数による現状が分かるようにしたい。
- 委員 皆さんが言うように、アンケートを取った後の動きが非常に重要である。アンケート結果は、比較するものがあつた方がよい。例えば、県内の先進自治体や近隣の同規模の自治体での結果と比較して示せば、他と比較して自分の事業所が進んでいるかどうかを把握することができると思う。
- 事務局 男女別の育休取得率は、国・県とも数字はあると思う。数字の比較ができない場合でも、先進的な自治体や事業所の取り組みなどをアンケート結果と一緒に示すことで、事業所の現状を振り返ることにつながると思う。
- 委員 企業が取り組んでいることに対して、従業員がどう考えているかを拾えないか。
- 事務局 アンケートは、どうしても回答する人を絞らなければならない、従業員がどう考えているかは、回答者の憶測や恣意になってしまうと考えられ、設問に組み込むことができなかつた。偶然ではあるが、商工会議所で「仕事と子育てについてのアンケート」を現在実施していると聞いている。子育て中の働いている方に向けたアンケートなので、その結果を参考にし、企業アンケートの結果とも照らし合わせたいと考えている。アンケートの概要を説明願いたい。
- 委員 「仕事と子育てについてのアンケート」は、18才以下の子どもがいる多治見市在住の父母を対象にしている。企業アンケートとは逆に、働いている人に焦点をあてている。このアンケートは、小学校、中学校、幼稚園、保育園に依

頼、公共施設などに設置し、12,000部配布している。できるだけ多くの属性の方に配布し、偏らないよう意識している。回答は、QRコードを読み込み入力するようになっている。メールアドレスを入力すれば、結果を直接送ることになっている。また、結果を踏まえて行政や地域の企業に仕事と子育ての現状を周知する予定である。回答者数が多いため、集計や分析に時間を要する見込みで、結果の公開は年度内には難しいと思われる。

会 長 アンケートのチラシの右肩にある「多治見は子育てしやすいまちですか？」という問いかけにより、アンケートの主旨が伝わるよう、表現の工夫もされている。

本日の審議を踏まえ企業アンケートの配付、回収を進め、来年度の審議会で結果を報告いただく。

2. その他

(1) 条例制定20周年記念事業について（令和7年度）

事務局（説明）

会 長 アイディア出しの段階なので、希望するテーマや講師など、意見をいただきたい。

委 員 男女共同参画の根本は人権である。今回、講師候補として2名推薦したい。1人目は、ハンセン病の元患者で、熊本の菊池恵楓園で副会長をされている太田明さん。2人目は、女性教育の先駆者で瀬戸市でも活動をしている、聖カピタニオ女子高等学校のシスター大窪順子さん。

会 長 事務局は、どのような検討を経て講師を決めるのか。

事務局 多くの市民の参加を得たいので、親しみやすいテーマや講師を選び、また、今日的な課題についても啓発したいという思いがある。厳格な基準や審査があるわけではなく、そのような観点からいくつか候補を挙げ、課内で相談して決めている。

会 長 審議会からの提案も積極的に検討材料とするため、さらに意見をいただきたい。

事務局 男性が参加しやすいテーマなどはあるか。

委 員 時事的な話題であれば、聞いたことがあるから参加してみよう、となるかもしれない。

事務局 そのような視点は考えたことがなかった。

委 員 男女共同参画というと、男性が非難されるのではないかと思う人もいるかもしれない。また、講演会のチラシを見て、女性対象であると感じる人もいるかもしれない。また、チラシの書き方が、男性の参加しにくさに関係している可能性もある。

委 員 例えば、学者や活動家は、私にとっては敷居が高く感じる。外国の方や芸人が良い。その理由は、国同士を比較して両方の国のいいところを感じられるし、第三者的な意見として吸収できるように思われるためである。芸人は、集客力があり、笑いによって話が浸透しやすく、行ってみたいと思われるのではないかと思います。

委員 昨年度の上野千鶴子さんの講演会は多くの参加があったが、参加者の年齢層やアンケートでの反応はどのようなだったか。また、男女共同参画推進条例制定 20 周年にあたり、市としてのターゲットがあれば聞きたい。

事務局 上野千鶴子さんの講演会は、40～70 代の女性が圧倒的に多くて、男性の参加は少なかった。反応は、全体に好意的で良好だった。

20 周年にあたり、老若男女全市民の方に来てほしいところだが、どうしても女性の参加者の方が多い傾向がある。女性とともに男性も一緒に考えてもらう機会としたい。また、30 代、40 代の方に一度立ち止まって考えてほしいという思いもある。

委員 明確にターゲット層が決まっているのであれば、例えば、子育て世代なら PTA 連合会と連携するのも有効である。

委員 保育士は、男女共同参画に大きくかかわる職種である。今話題になっている保育士のてい先生を講師としてはどうか。てい先生の子育てについての話には、共感するところも多くあり、男女ともに子育ても仕事もという思いを感じられると思う。

委員 ターゲット層を絞りすぎると、主催者の下心が見えてしまう。多治見市が取り組んできた男女共同参画の今までとこれからを伝えることができる、純粋に 20 周年事業に適した内容を考えるべきである。

委員 講座を企画しても、本当に来てほしい方に来ていただけないという経験がある。ターゲットを絞っても参加を見込むのが難しければ、ひとつの方向性として、市の取り組みについて関心を持っていただくようなテーマを設定するのが良い。20 周年にふさわしいかは分からないが、男女の生物的な違いを理解したうえで、差別するのではなくどうやってより良い社会を作っていけばよいかを考える機会があると良いと思う。

会長 たくさんの意見が寄せられた。連携の可能性や、事業の方針・内容の整理など、事務局で意見をまとめ、ぜひ良い時間になるよう進めてほしい。

(2) 次回審議会の開催について (令和 7 年 5 ・ 6 月予定)

事務局 (説明)

(質問・意見なし)

事務局 これをもって令和 6 年度第 2 回男女共同参画推進審議会を終了する。20 周年記念事業については、アイデアがあればこの後も事務局に申し出てほしい。

(閉会)